香美市立美術館

アートの窓

Atlas 小泉俊己展

5月28日（土）〜7月3日（日）

　今回は、現代彫刻を楽しんでいただく展覧会を開催します。会場の中に一歩足を踏み入れると、そこは巨大な作品の内側になっており、さらにその作品の中に作品があり、その中に入って見ている人も作品の一部に取り込まれてしまう仕掛けになっています。

　１９５８年東京生まれの彫刻家・小泉俊己さんは、多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了した後、東京を中心にギャラリーでの個展やグループ展で作品を発表してきました。１９８９年、ベルギーのアントワープで開催された**現代日本彫刻展**をはじめ、全国各地の美術館での展覧会に出品を重ね、１９９３年には文化庁芸術家在外派遣研究員としてドイツに一年間滞在し、『美術の力』や『美術を守り育てる力』を実感したと言います。現在は多摩美術大学で学生の指導をしながら、制作をされています。

▲「水脈（図法－１）２０１０」撮影／安齊重男

　今回の展覧会のタイトルＡｔｌａｓは、直訳すると「地図帳」、「図解書」などの意味ですが、小泉さんは「地図帳」から地球や、さらにもっと広いマクロの世界、逆に微小なミクロの世界を同時にイメージしているようです。小泉さんは「人間の持っている想像力を働かせて、世界を見る必要がある。目で見えていることだけで世界を見てはいけないし、一面を持って世界を捉えてはいけない。そういう意味で、身近な自然や、物事を、想像力を持って、俯瞰（ふかん）的に、またもっと内なるものも見ていく必要があると思う」と語っています。

　小泉さんの作品が創る世界は、私たち人間をも含む生き物、そして生き物を含むすべての物質がたどる時間と空間、生と死に関わる『循環』の摂理を物語的に見せてくれます。

　会場空間でゆっくりと作品との対話を楽しんでいただきたいと思います。ご来館をお待ちしております。

（館長・北　泰子）

香美市行政改革

—第1次行政改革成果、第2次行政改革スタート—

１０・１１㌻では、第１次行政改革の取り組み概要とその成果を、１２・１３㌻で、第２次行政改革の取り組みについてお知らせします。

第１次行政改革（平成１８〜２２年度）の実施報告と２３年度から新たに取り組む第２次行政改革についてお知らせします。

　香美市は、平成18年３月に町村合併という大きな**行政改革**※１を実施しましたが、厳しい財政状況下で地方分権や社会情勢等に対応しながら、多様化する市民ニーズに応えていくのは難しい状況です。

　そこで、将来世代に責任が持てる行財政運営を図るため、**行政改革大綱**※２と**行政改革実施計画（集中改革プラン**※３**）**を策定し、財源や資源を有効かつ最大限に活用するなど、減量化に終始することなく、時代の要請に応えられる体制を確立するための取り組みを実施しています。

　今回、第１次行政改革（平成18〜22年度）の実施報告と、23年度から新たに取り組む第２次行政改革についてお知らせします。

※１　行政改革とは
市役所の仕組みや処理されている事務・事業の進め方などを見直し、より良いものに変えていく取り組みのことです。

※２　行政改革大綱
行政の担うべき役割の重点化を図り、分権時代にふさわしい簡素で効率的・効果的な行政運営を行うためのあらましを示したものです。

※３　集中改革プラン
平成19年度に、香美市行政改革大綱に基づき具体的な改革事項を示したものです。

　第１次行政改革では、次の８項目について重点的に取り組みました。

第１次行政改革の重点項目
①事務事業の再編・整理、廃止・統合
②民間委託等の推進
③自主財源の確保
④定員管理の適正化
⑤給与の適正化
⑥第三セクター等の見直し
⑦経費節減・合理化
⑧行政情報の共有化と市民参画

　例えば、行政改革がスタートする前に行われていなかった、③自主財源の確保では、市役所が使用する封筒や、広報誌・ホームページへの有料広告の掲載を開始し、現在まで、約300万円の収入がありました。

　これは、広報誌の印刷経費約１年分にあたります。

　また、④定員管理の適正化では、平成22年４月時点での職員数の削減目標定数423人を大きく下回る414人に削減するなど、大きな成果を得ています。

　第２次行政改革では、次の５項目について重点的に取り組んでいきます。

第２次行政改革の重点項目
①健全財政への進化
②組織・機構の充実
③事務事業の見直し
④職員の意識改革と人材育成の推進
⑤市民参画と協働のまちづくり

【問い合わせ先】政策企画財政課 ☎53・3114

背景写真（市役所新庁舎を望む）